

共同運営部門：リハビリテーションセンター

—概要—

リハビリテーション科では医師1名、理学療法士23名、作業療法士10名、言語聴覚士5名、事務員2名を配し、周術期の患者さんを中心に様々な視点からリハビリテーションを実施している。

リハビリテーション科の診療基準では、運動器リハ I、脳血管リハ I、心大血管リハ I、呼吸器リハ I、がんリハ I の施設基準を取得している。また2016年9月より日曜日の1日運用を開始し患者さんに対し、切れ目のないリハビリテーションを提供している。

【理学療法部門】

理学療法部門では、周術期の患者さんの治療以外にも呼吸サポートチーム、緩和ケアチーム、心臓リハビリテーションチームの構成員として院内にて活動を行っている。

さらに糖尿病患者の糖尿病教室や生活習慣病の教育事業にも参加を行い患者さんの運動習慣の改善に貢献できるように活動を行っている。

また心臓リハビリテーションでは、患者さんの個々の運動能力に応じた運動処方を行えるように心肺運動負荷試験(CPX)を定期的実施している。そして2016年7月より外来心臓リハビリテーションの本格運用を開始した。

【作業療法部門】

作業療法部門では、患者さんの日常生活動作の改善を目的にリハビリテーションを施行している。それと共に日常生活動作の方法を安全に実施して頂ける為のパンフレットの作成や福祉用具の紹介、提供も併せて行っている。

そして褥創予防にも取り組んでおり、病棟スタッフと協力し患者さんのポジショニングや病棟への研修会も実施している。

【言語聴覚部門】

言語聴覚部門では、脳血管障害の患者さんに対し失語症、高次脳機能障害に対してのリハビリテーションを実施している。また患者さんの摂食嚥下の向上を図るため、病棟スタッフと協力して摂食機能療法にも取り組んでいる。併せて摂食嚥下ワーキンググループへの参加、栄養サポートチームの構成員としての活動も行い、病棟に対し摂食嚥下の研修会も実施している。

—実績—

2016年4月から2017年3月までの実施件数は以下の通りとなる。

(表1) 2016年度リハビリテーション科実績

	実施人数(延べ人数)	実施単位数
理学療法部門	47,109人	73,708単位
作業療法部門	23,781人	36,985単位
言語聴覚部門	12,006人	15,600単位

理学療法、作業療法、言語聴覚部門では日常業務以外にも学会等にて研究発表も積極的に行っている。

—今年度の成果と反省点—

今年度の成果として理学療法部門では、救命領域での入院当日のリハビリテーション依頼の確立、外来心臓リハビリテーションの本格運用を開始した。作業療法部門では、各病棟において患者さんの自助食器の導入を行い、院内での食事動作の改善に努めた。また言語聴覚部門では、病棟スタッフと協力し摂食嚥下療法に取り組み今年度は1,927件の実績を残すことができた。

—来年度への抱負—

来年度の抱負として理学療法部門では、救命領域での更なるリハビリテーションの充実、外来心臓リハビリテーションの稼働率の向上を図っていく。作業療法部門では認知症ケアセンター運営委員会への参加を行い、認知症患者への介入を深めていく。また言語聴覚部門では、摂食機能療法に関し認定看護師と共にシステムの整備を行っていく。それと共に高次脳検査等の件数の増加を図っていく。

リハビリテーション科全体では医師、看護師、その他職種との協力を行い、包括的なリハビリテーションを提供できるように取り組んでいきたいと考えている。

